

2013年に「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」、2014年に「スーパーグローバル大学創成支援事業【タイプB：グローバル化牽引型】」、2015年に「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」にそれぞれ採択され、グローバル人材育成と地域貢献のための教育研究活動の充実に取り組んできた。また、2018年度に文部科学省より「数理及びデータサイエンスに係る教育強化の協力校」として選定され、全学的な数理・データサイエンス教育を推進している。

現在、全学副専攻プログラムとして、グローバル人材育成のための副専攻「国際日本学」、地域の“未来”づくりができる人材育成プログラム「ローカル・イノベーション学」、イノベーション人材育成のための副専攻「数理・データサイエンス教育プログラム（副専攻）」が実施されている。これらの全学副専攻プログラムでは、設定された要件を満たすことで、修了証書または履修証明書等を得ることができる。これらの全学副専攻プログラムは、専門教育科目とともに普遍教育科目において構成科目が設定されており、普遍教育科目は、全学共通の授業科目として重要な位置を占めている。

第6節 入試制度の変遷

第1項 変遷と現状

1979年度入学者選抜から共通一次試験が導入され、大学入試の大改革が行われた。その後、大学入試センター試験（1990～2020年度）、2021年度に共通テストと名称は変わったものの2段階の選抜方法による一般選抜の本質は2023年度選抜にいたる40年以上、変わっていない。この間、本学ではセンター試験（共通第1次学力試験）と第2次個別学力検査等および調査書などを総合して入学者を選抜することを入学者選抜の柱としてきた。本学の入学者選抜の変遷について、共通一次試験が導入されるまでは『千葉大学三十年史』に、大学入試センター試験の導入後1996年度までの経緯は『千葉大学五十年史』に詳しく記されているのでそちらに譲る。現在、学生募集定員2,300名（2023年度）に対して、一般選抜（2,052名、うち前期1,724名、後期328名）と特別選抜（248名）による学生募集を行っている。本学の一般選抜と特別選抜の志願者合計は常に1万人を超えている（図1-3-6-1）。

第2項 一般入試

本学では、1997年度以降、センター試験と個別学力検査の結果および調査書をもとに選抜する一般入試の募集定員を定員の9割程度にしてきた。1997年度から全学部が「分離・分割方式」に統一したのちは、前期・後期日程の募集人員比率を「7：3」（それ以前は「8：2」）として一般入試を実施した。現在では後期日程を廃止した学部（看護学部2006年度募集停止、教育学部2007年度募集停止）もあるが、千葉大学として後期日程選抜を維持しつつ、一部の選抜を推薦入試に移行させた。これにより、1999年度以降、前期・後期日程の募集人員比率は変化し、現在「84：16」になっている。センター試験／個別学力検査の配点比率は、前期日程では同等程度、後期日程ではセンター配点比率を比較的高くしていた。また、本学の理系学部は個別学力検査理科教科1科目で受験できる大学の中で偏差値全国1位に位置していた。理科科目の学力重視の観点から、前期日程の選抜では2012年度に医学部、工学部が、2017年度に理学部、看護学部が、2018年度に園芸学部が、2021年度に薬学部が、個別学力検査理科教科を2科目とした。また、園芸学部、教育学部がそれぞれ2015、2016年度に前期日程の個別学力検査受験科目に英語を指定したことによって、全学で英語科目の指定が統一された。個別学力検査では、課される科目、センター／個別の配点が各学部学科等で独自に設定されていたため、2010年頃から受験者・高校指導者から千葉大学の入試はわかりにくいという声が聞こえていた。2016年度から個別学力試験を重視する配点（センター試験の配点の約2倍、センター配点：個別配点＝450：900程度）を全学で統一できるように配点変更をしてきた。同年、新設された国際教養学部では、外国語の外部検定試験の成績を利用することを全国に先駆けて取り入れた。現在（2023年度入試）、文学部の一部と医学部を除く9学部で外部検定試験の成績を利用している。外部検定試験の成績利用については全学で議論され、受験者の状況によっては公平性の担保ができないことを理由として反対もあったが、受験生が高校時代（過去3年間）も頑張っており組んだ証として、外部検定試験の成績利用を多くの学部で決定した。2023年度入試では、全受験者の15%程度が、外部検定試験のスコア利用により個別学力検査の成績に加点された。合格者に占める外部検定試験利用の加点者の割合は23%と全受験者に占める割合よりも高かった。

後期日程の選抜では、従前より前期日程選抜とは異なる観点からの総合テストおよび小論文を多くの学部が課していたが、後期日程の定員削減と基礎学力重視の方針に

に伴い、2017年度から医学部、工学部、園芸学部の一部で後期日程の受験科目を前期日程同様の教科科目型の選抜に変更した。同時に、工学部、園芸学部では、個別学力試験を重視する配点（センター試験の得点と同程度、センター配点：個別配点＝450：400～500）に変更した。この2年間の大きな変更は、結果として同学部の志願者増加をもたらし、千葉大学全体の受験者が前年比で増加した。

1997年度から2022年度までの本学の一般入試における志願者数を図1-3-6-1に、1979年度以降の志願倍率と入学辞退率を図1-3-6-2にまとめた。センター試験導入直前の混乱期（1987年度）には志願者が19,778名（第一段階不合格者6,449名）に達

図 1-3-6-1 入学試験種別志願者数推移

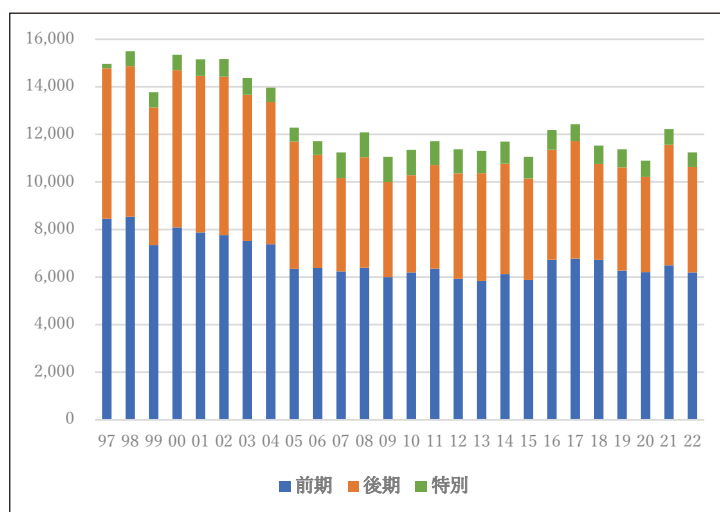
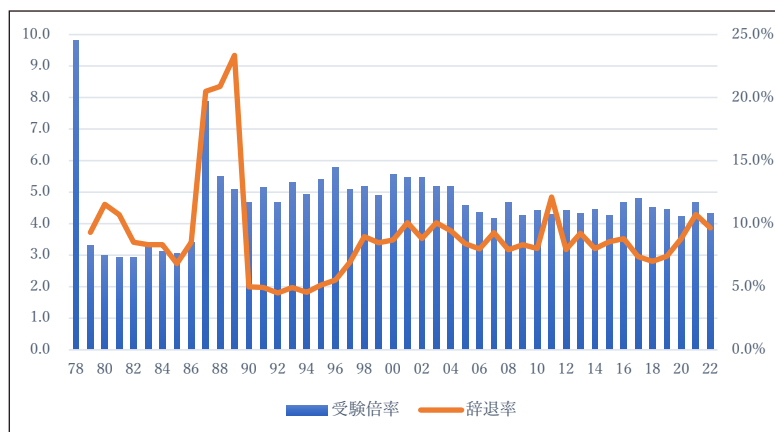


図 1-3-6-2 志願倍率と辞退率の推移



したが、1997年度以降、少子化に伴う受験年齢人口の減少と大学受験者割合の増加の中で、千葉大学は常に1万人を超える志願者に恵まれていたと言える。一般入試では、志願者が2009年度入試で唯一9,999名となったが、2010年度以降、14年連続で志願者が1万人を超え、2016年度入試で東京大学が後期日程の募集を停止したこともあって、本学が2023年度時点で8年連続国立大学志願者数全国1位である。

第3項 特別入試

(1) 推薦入試（学校推薦型選抜）

多様な受験者を選抜する観点から、学校長の推薦にもとづき、学力検査を免除し、調査書を主な資料として小論文、面接、総合テスト等により選抜している。1979年度に工学部Bコースの全学科が実施した後、医学部を除く8学部で推薦入試が導入され、2017年度には最大184名の定員で実施された。第3期中期計画期間（2016～2021年度）の大学入試改革の中で、推薦入試の定員の多くをAO入試に移行させた。このため、2023年度入試では、文学部（定員24名）、薬学部（同10）、看護学部（同24）が学校推薦型選抜を実施した。

(2) AO入試（総合型選抜）

2007年度に教育学部が最初に教員志望者としての資質・意欲を評価するAO入試を定員50名で実施した。その後、第3期中期計画期間の大学入試改革における入学者選抜の多様化にこたえるため、2017年度に国際教養学部（定員5名）、2018年度に工学部（同20）、園芸学部（同15）、2019年度に法政経学部（同5）、2020年度に文学部（同3）、理学部（同4）がAO入試を導入した。2023年度に医療系3学部を除く7学部で173名の総合型選抜を実施している。上記以外にAO入試の範疇にまとめられる特別選抜プログラムが存在する「理数大好き学生選抜（理学部・工学部・園芸学部：定員25名、2009～2012年度／工学部：若干名、～2019年度）、経済学特進プログラム選抜（法政経学部：若干名、2016～2018年度）、園芸産業創発学プログラム選抜（園芸学部：若干名、2017～2018年度／定員10名、2019年度より現在も実施）」。これらの選抜プログラムの一部は形を変えて、各学部の総合型選抜に引き継がれている。

(3) 社会人特別選抜

大学入学資格を有する職務経験のある社会人を対象にして、学力試験を免除し、提出書類、小論文、面接により選抜している。1994年度に看護学部（定員7名）、1997年度に文学部（若干名、一時期2名）が社会人特別選抜を導入し、現在も実施している。また、工学部Bコース（定員最大56名、1997～2007年度）、教育学部（若干名、2000～2015年度）、園芸学部（若干名、2008～2018年度）が選抜を実施した。

(4) 帰国子女特別選抜

海外で教育を受けて帰国した者を対象にして、提出書類、小論文、面接により選抜し、外国の教育事情を考慮して学力検査は免除された。1986年度から文学部が実施し（～2005年度）、理学部（1988～2009年度）、薬学部（1997～2022年度、2013～2019年度秋入学）、工学部（2005～2012年度）、教育学部（2008～2015年度）が実施した。募集はすべて若干名で行われた。本学の帰国子女特別選抜は、2022年度の薬学部の募集を最後に廃止された。

(5) 3年次編入学

高等専門学校・短期大学・大学を卒業した者等を対象として選抜し、3年次への編入学を認めるものである。1978年度に工学部が、1999年度に文学部が募集を開始し、現在も実施している。また、看護学部（1979～2021年度）、法経学部（1994～1999年度）、医学部（2000～2019年度）が3年次編入学の選抜を実施した。工学部では、高等専門学校等の推薦による編入学も実施している。

(6) 私費外国人留学生選抜

外国において教育を受けた外国籍を有する者を対象に、日本留学試験（日本学生支援機構）ならびに学力検査、提出書類、面接により選抜している。現在（2023年度入試）、国際教養学部を除く9学部で私費外国人留学生選抜を実施している。

(7) 先進科学プログラム（飛び入学）学生選抜

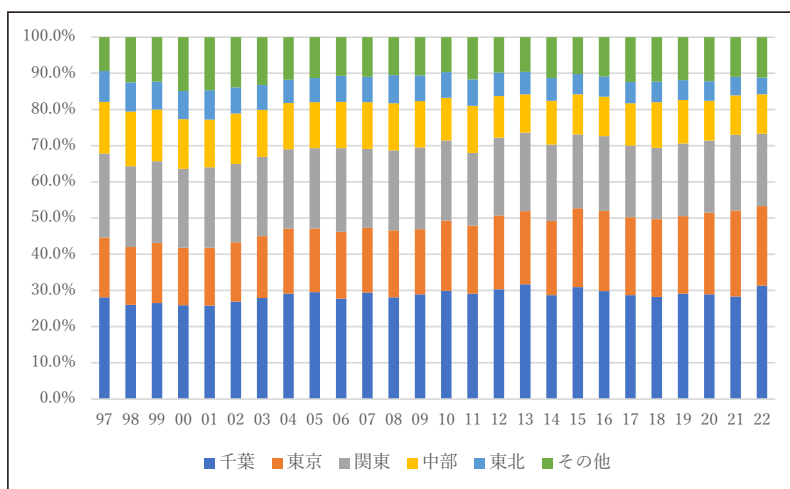
千葉大学は他大学に先駆けて、高校に2年以上在学した者で特定の分野における特に優れた資質を持った上で高校卒業と同等以上の学力があると認めた者に対する「飛び入学」を1998年度から実施し、現在も継続されている。2023年4月まで26年間の

入学者は104名（志願者総数473名）に達する。

第4項 志願者・入学者の出身地

本学は首都圏の大学では東京大学に次いで募集定員の多い総合大学である。志願者は全国各地からあり、その割合は図1-3-6-3に示すとおりである。志願者動向を長期的にみると遠方からの志願者が漸減していることが窺える。最近では千葉・東京が志願者割合からは若干少なくなるものの、千葉県（約30%）・東京都（約20%）を除く関東圏（約20%）、中部圏（約15%）、東北地区（約5%）から多くの入学者が本学で学んでいる。詳細資料は毎年発行される大学案内（大学HP・入試広報資料からダウンロード可）に記載されている。

図 1-3-6-3 志願者の出身地



第7節 留学生の受け入れと派遣

第1項 受入れ

戦後の留学生受け入れ史は、全国の国立大学で2つだけ設置されていた国費留学生の予備教育課程の存在から説明する必要がある。すなわち、学部への3年次編入を希望する国費留学生（日本の文部省奨学生）に対して、日本語や基礎科目を3年間教